

目次

はじめに	1
1. 本書の内容 2. 対象読者 3. 本書の例文 4. 本書の「つまみ食い」的な性質について 5. 構成と読み方	
本書が推奨する学習姿勢	7
1. 学習姿勢の全体像 2. 抽象知識と具体知識の両方の重視 3. アウトプットにおける具体知識優先の原則—「本質」主義からの脱却— 4. 熟語を覚えようと言っているのではない 5. まとめ	
凡例	24



Part I

第1章 位置の2段階指定	26
1. 位置の2段階指定とは 2. 日本語ではどうか 3. 学習者がつまずきがちなる back パターン 4. out there の熟語性 5. まとめ	
第2章 hit him on the head 型の表現	45
1. 部位構文とは 2. 書き換えはいつでも可能か？ 失われる意味はないか？ 3. 位置の2段階指定の一種としての部位構文 4. {in / on / by} のうち in のみが OK になる部位構文 5. on のみが OK になる部位構文 6. in も on も OK になる部位構文 7. by のみが OK になる部位構文 8. 定冠詞 the の謎を解く 9. {in / on / by} 以外の前置詞と部位構文 10. まとめ	

第3章 「たら」「とき」「あいだ」が潜む前置詞 69

1. 「たら」「とき」「あいだ」が潜む副詞要素
2. with
3. on
4. in
5. まとめ

第4章 経路にまつわるあれこれ 81

1. 経路を俯瞰してみよう
2. 情報の割り振り方の日英差
3. way 構文
4. 経路とその終点
5. まとめ

第5章 will be P 構文 104

1. will be P 構文とは
2. will be P 構文の周辺
3. be 動詞で変化を表すパターンは他にも
4. まとめ

第6章 差分スロット 119

1. 差分の大きさを語ろう
2. 差分表現 + along ...
3. 差分表現 + down ...
4. 差分表現 + through ...
5. 差分表現 + in (to ...)
6. 差分表現 + away from ...
7. 差分表現 + ahead (of ...)
8. 差分表現 + out (of ...)
9. まとめ

コラム 関連付けの自由 137

Part II

第7章 as 142

1. 前置詞の as は「…として」か
2. なりきりのパターン—変装・仮装・モノマネー
3. 理由を表すパターン
4. まとめ

第 8 章	away	154
	1. ハグ離れ? 2. 外界から切り離される [動詞 1 語 + away] 構文 3. [動詞 1 語 + away] 構文のよくあるパターン 4. まとめ	
第 9 章	by	170
	1. by doing ... の探求 2. 日本語の「…することによって」 3. by doing ... は硬くない 4. A by doing B の B は意図的行為でなくても OK 5. A を狙っていないなくても OK 6. A と B が同じ時間幅を占めていても OK 7. まとめ	
第 10 章	for	188
	1. チャンスがあれば痛い目に遭わせてやる 2. have it in for sb の仕組み 3. 相対的未来における経験主体を導く for 4. 「相対的未来」はここにも 5. まとめ	
第 11 章	in	210
	1. in an {effort / attempt} to do ... 2. 同一の行為の捉え直しの in 3. 実は「形状の in」も… 4. まとめ	
第 12 章	of	230
	1. 摂取から数分以内に死ぬのか, 摂取により数分以内に死ぬのか 2. within X of Y の時間用法 3. within X of Y の空間用法 4. of ... に「…から」の意味があると指摘することにどれほどの意義があるのか 5. まとめ	
第 13 章	on	240
	1. What chapter are you on? の謎 2. 実例が教えてくれる具体的な使用パターン 3. タイミングの一致 4. 機器のモード選択 5. 選択肢の中から吟味して決める 6. リストという線に乗って 7. 線の代表選手「道」登場 8. on と移動式イベント 9. まとめ	

コラム 未分類ファイルのすゝめ	262
第14章 through (1)	266
1. smile through tears 2. 発話への抵抗 3. 聞き取りへの抵抗	
4. 接触への抵抗 5. through を含んだ (比喩的) 移動表現 6. まとめ	
第15章 through (2)	285
1. 通り抜けない through 2. 中を進んでいく, ただそれだけ。	
3. 辞書記述の見直し 4. 「あちこち」への調整が働かない実例—in との対比—	
5. 「あちこち」への調整が働く実例 6. まとめ	
第16章 to	299
1. there is X to Y 構文 2. X が「側面」「構成要素」 3. X が「規則 (性)」	
4. X が「限度, 限界」 5. X が「真実性」 6. X が「やるべき特別なこと」	
7. X が more 8. 他の用法との関係 9. まとめ	
第17章 with	321
1. do X with Y 型表現 2. 「…と一緒にいるときにその～に対して」	
3. 「Y を {状態変化/位置変化} させるような行為として X をする」	
4. do X with Y と do X to Y の比較 5. まとめ	
コラム 語を知っていることと人を知っていること	335
本書で引用した文献	339
あとがき	344
謝辞	347



第 13 章

on

1. What chapter are you on? の謎

ある TV ドラマに次のような実例があります。

(1) [状況説明] 自分の著書を読んでくれている聞き手に対して尋ねます。

What chapter are you **on**?

(*The Big Bang Theory*, Season 3, Episode 21)

今、何章読んでるの？

もしも work on ... 「…に取り組む」という言い方に馴染みがあり、かつ [人間 + be on ...] というパターンに触れたのが初めてである場合には、「この on は、work on ... などに見られる〈取り組みを表す on〉だろうな。はい、分類完了。ここから学ぶことなんて何もないぞ」と思い、それで満足してしまうかもしれません。

しかし、母語話者が (1) を発話するにあたって利用した知識は〈取り組みを表す on〉という知識 (だけ) だと考えるのは妥当ではありません。

というのも、もしもそのような知識を利用しているならば次のような例
だって OK になるはずですが、実際にはこれらは不自然な英文です。

- (2) [状況説明] 帰宅直後の話し手が、読書中の息子に対して、Hi. What are you reading? (ただいま。何読んでるの?) の意味で言います。

*Hi. What are you **on**?

- (3) [状況説明] 帰宅直後の話し手が、不思議な運動をしている息子に対して、Hi. What are you doing? (ただいま。何してるの?) の意味で言います。

*Hi. What are you **on**?

それでは、(1) の話し手はどのような知識を利用してこの英文を発したのでしょうか。

2. 実例が教えてくれる具体的な使用パターン

確かに、(1) の 1 例だけにしか出会っていないならば、〈取り組みを表す on〉だろうと思って満足してしまう気持ちもわからなくもないですが、実例に大量に触れてみれば、実例の側から「僕たちはもっと具体的な使用パターンの例なんだよ」と教えてくれます。以下の (4) - (7) をじっくり観察してみてください。何か共通性があることに気が付かないでしょうか。

- (4) [状況説明] レストランのシェフがホールスタッフに電話をかけて、特定の客の状況について質問しています。なお、英語の course は日本語の「コース」と違ってコース料理として出てくる一品一品を指すことに注意してください。

What's he eating? What course is he on? (映画 *Chef*)

あいつは今何を食べてる? 何品目だ?

- (5) [状況説明] 語り手は Conor と Isabel の家で一緒にディナーを食べています。

I watched Conor throughout the meal, bending farther and farther over his plate. He didn't speak until we were on dessert and Isabel was dishing out the neighborhood gossip. (Eithne Shortall, *Grace After Henry*)

私は食事中ずっと、コナーがどんどん背を丸めて、皿に覆いかぶさるような姿勢になっていくのを見つめていた。彼はデザートに入ってイザベルがご近所ゴシップをばらまくまで口を開かなかった。

- (6) [状況説明] 話し手は都市計画者で、ある区域の設計を任されています。何度も失敗してやり直しているのですが、上司の Shawn には最初の失敗しか報告していません。

Shawn still thinks I'm on Version Two.

(*The Good Place*, Season 2, Episode 2)

ショーンはまだ、私がバージョン2を進めているところだと思っている。

- (7) [状況説明] 話し手と聞き手が一緒にジョギングをしています。話し手は聞き手があらかじめ用意した iTunes プレイリストをヘッドフォンで聴きながら走っています。

You must be pretty proud of this playlist if you keep asking me what song I'm on [...]

(<https://www.fanfiction.net/s/10047464/1/I-Think-I-Wanna-Marry-You>)

そんなに何度も「今どの曲？」って聞いてくるってことは、よほどこのプレイリストに自信あるのね [...]

(4) の course や (5) の dessert は日本語で言うところの料理のコースを構成する品のうちの1つです。(6) の Version Two はたくさん連なっている versions のうちの1つを指します。(7) の what song はプレイリストという一連の流れを構成する曲のうちの1つを指しています。このように見えてくると、これらの例で利用されている知識は、「人間 + be on + 特定の順序をもって一連の流れを構成するもののうちの1つ」という形式で「〈人間〉が〈特定の順序をもって一連の流れを構成するもののうちの1つ〉を今経験しているところだ」の意味を表す、というかなり具体性の高い知識であることがわかります。

そう思って(1)を読み直してみると、確かに chapter は特定の順序で並び、一連の流れを構成しています(それにより本というものができわけです)。そして(2)と(3)が不自然なのは、これらの状況では息子の読んでいる本やしている運動が一連の流れを構成する1つとして認識されにくいからだろうと考えられます。その証拠に、(2)と同じように何の本を読んでいるのかを尋ねる疑問文であっても、その本が一連の流れを構成する1つとして認識しやすいような状況を作れば、不自然さは解消されます。以下の作例を見てください。

(8) A: I started reading the Harry Potter series a couple of months ago.

B: Oh. What book are you on?

A: ハリーポッター・シリーズを2, 3ヶ月前から読み始めたんだ。

B: そうなんだ。今何作目?

(2)と(3)は不自然だと教えてくれた英語母語話者に確認すると(8)は自然だとのこと。この場合には book がハリーポッター・シリーズという一連の流れを構成する1つとして認識されるからでしょう。

これらの用例における on は、非常に大雑把に言えば〈取り組みの on〉

と言えなくもないですが（一応読んだり食べたりして取り組んでいますからね）、英語母語話者と同じように使えるようになりたいと思った場合には、このような抽象的なラベルで覚えていてもダメで、[人間+ be on + 特定の順序をもって一連の流れを構成するもののうちの1つ] という形式で「〈人間〉が〈特定の順序をもって一連の流れを構成するもののうちの1つ〉を今経験しているところだ」の意味を表す、という具体的な知識を持つことが必要です。

3. タイミングの一致

3.1. N回目の…のタイミングで

前の節で見たパターンは、on の目的語が、線的に並ぶ要素のうちの1つを指すパターン的一种であると考えられます。このパターンには、(9)-(12)のような「N回目の…のタイミングで」を表す on the Nth ... のパターンが含まれます。

(9) He picks up the receiver on the fourth ring.

(Paul Auster, *Travels in the Scriptorium*)

彼はジリリと4回鳴ったところで受話器を取る。

(10) [状況説明] 語り手が病人を介護している場面です。

I fed him six spoonfuls, but on the sixth one his throat made a gurgling noise and some of it came back out.

(Rebecca Brown, *The Gifts of the Body*)

私は彼にスプーンで6回ジュースを飲ませたのだが、6回目のときに喉がゴボゴボと鳴り、少し口から出てきてしまった。

- (11) [状況説明] 語り手がかがんだ状態で上級生に尻を棒で何度も叩かれるといういじめを受けていたときの話です。

On the fourth stroke I would invariably straighten up.

(Roald Dahl, “Gallopig Foxley”)

私は4発目を食らったときに決まって身体を起こしてしまった。

- (12) [状況説明] 生徒たちが、各自先生から渡された鍵のダイヤルロックの解除に取り組んでいる場面です。

Henry still couldn't get his lock to open, and he was getting more and more frustrated every time someone else popped one open. He got really annoyed when I was able to open mine on the first try. (R. J. Palacio, *Wonder*)

ヘンリーはまだロックを解除できていなかった。他の人のがパカッと開くたびにヘンリーの苛立ちは増していった。僕が1回目で成功したときには本当に嫌そうな顔をした。

これらの例では、潜在的にはN回目で止まらずN+1回目、N+2回目…と続きうる事柄に注目して、そのN回目で何かが起こったということが表現されています。したがって、onの目的語は線的に並ぶ要素のうちの1つとして認識されていると言えます。たとえば(9)のon the fourth ringにおけるthe fourth ringは、話し手の頭の中で... the third ring, the fourth ring, the fifth ring ...と線的に並んでいるうちの1つに対応しています。(12)のon the first tryのthe first tryは、話し手の頭の中でthe first try, the second try, the third try ...と線的に並んでいるもののうちの1つに対応しています。ここでは最初にトライしていきなり成功しているので、複数回のトライが線的に並ぶということが現実には起こらなかったわけですが、潜在的にはそうなりうるものと話し手が認識しているのは明らかです。トラ

イが1回で終了することがはじめからわかっている話し手は「最初にトライしたときに」と言おうとはしないでしょ。

on の目的語が線的に並ぶ要素のうちの1つに対応し、かつ文意としてはタイミングの一致が表されるパターンの中に、複数の人が何かを同時に行うために「イチ、ニのサンで行くぞ」などと言うときの on three を含めることもできるでしょう。

(13) [状況説明] 写真撮影の場面です。

Okay, everybody, here we go. “Cheese” on three! One, two, cheese!

(Columbo, Episode 59)

それじゃ皆さん、いいですか。3つ数えたところでチーズを！ ワン、ツー、チーズ！

3.2. on three は 3 カウント？ 4 カウント？

しかし、厄介なことに、3つ数えるときに on three と発話するという儀式が定着しすぎて(9)-(12)のようなタイミングの一致を語る用法との関連が忘れ去られてしまったのか、on three と言っているのに three を言い終わったあとに行為を行うことも（つまり実質的には4カウントになってしまっていることも）多いです。以下の実例を見てください。

(14) [状況説明] 地下室のドアノブが取れてしまい、話し手と聞き手は閉じ込められてしまいました。そこで、同時に勢いよくタックルすることによってドアを開けようとしています。

We gotta both do it together, and it's gotta be precise, all right? So I'll count. We'll go on three. You ready? One, two, three! Go!

(Full House, Season 5, Episode 4)

同時にやらないとな。正確に同時。いいな？ それじゃ俺がカウントするぞ。3つ数えてスタート。準備いいか？ 1, 2の, 3! 行くぞ!

(15) [状況説明] 人間を拷問することが大好きな悪魔たちが集まり、タイミングを合わせて「拷問!」と叫ぶシーンです。

Michael: So, “torture” on three. Ready? One, two, three ...

All: Torture! (*The Good Place*, Season 2, Episode 1)

マイケル: それじゃ、3つ数えたら「拷問」と言おう。1, 2, 3 ...

全員: 拷問!

(14)で2人が走り出すタイミング、(15)で全員が Torture! と叫ぶタイミングは three のタイミングとは一致していません。むしろ読まれていない four のタイミングと一致しています。なお、(15)のように複数人が共通の目標やスローガンなどを一斉に叫ぶ行為は一般に battle cry と呼ばれており、battle cry の直前には “on three” が出てきやすいと言えます。

この4カウント解釈では、“three” という言葉を聞いたあとに（直後に）、それを合図にして何かをすることになります。となると、この場合の on の用法は、signal や whistle などを目的語に取った on の用法と同じものと考えられることができるでしょう。

(16) [状況説明] 男性チームと女性チームでクイズに答えながら競走する遊びをしようとしています。以下は司会者の発話です。

Okay, inside these envelopes are your first clues. On my signal, open them and let the race begin.

(*Fuller House*, Season 5, Episode 7)

それでは、この封筒には1つ目のヒントが入っていますので、私からの合図があったら開封して、競走スタートとなります。

(17) Ready to upload on your signal.

(*Star Trek: Voyager*, Season 3, Episode 8)

合図があり次第、アップロードを開始できます。

(18) [状況説明] アメリカンフットボールのタックル練習の場面です。

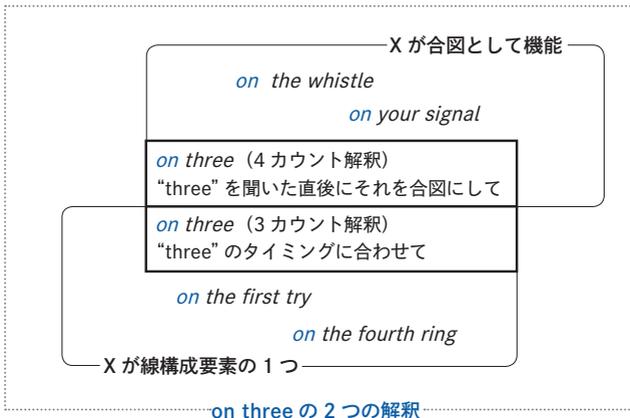
On the whistle, men.

(映画 *The Blind Side*)

笛の合図でスタートだ。

これらのケースでは、*signal* と {*open them / upload*} が完全に同時だったり *whistle* とタックルのスタートが完全に同時だったりしません。*signal* や *whistle* のあとに (直後に)、それを合図にして、{*open them / upload*} したりタックルしたりするのです。

on three の3カウント解釈と4カウント解釈が *on* の他の用法とどのように関連しているかを図示すると以下のようにになります。



とても面白いことに、TV ドラマ *Full House* の続編の *Fuller House* には、on three に 3 カウント解釈と 4 カウント解釈があることによって混乱が生じる、という場面があります¹。

(19) Kimmy: “Team D.J.” on three. One, two ...

Stephanie: Well, hold on. Is it one, two, and then we say “Team D.J.” on three? Or is it one, two, three, and then we say it?

(*Fuller House*, Season 1, Episode 2)

キミー： スリーカウントで「チーム D.J.」って言おう。ワン、ツー…

ステファニー：ちょっと待って。ワン、ツーで次にスリーに合わせて「チーム D.J.」って言うの？ それともワン、ツー、スリーときて次に言うの？

ステファニーは、キミーが言った“on three”は 3 カウント解釈を意図したものなのか、4 カウント解釈を意図したものなのかを確認しているわけです。

4. 機器のモード選択

車や iPhone などの機器にはいくつかのモードが選択肢として並んでいて、そのうちのどれかに設定することが求められます。このような設定行為を英語では set X on Y 「X を（選択肢の中から選んで）Y に設定する」という動詞句で表現することができます。「X が（選択肢の中で）Y に設定されている」ならば単に be 動詞を使って X is on Y とすることもできます。

(20) “Somebody ’specting [= expecting] you up there, are they?” the man asked as he started up the engine and set the wipers on high speed. (Sarah Weeks, *So B. It*)

「行ったらあつちで誰か待ってくれてんだよな？」と男性はエンジンをかけてワイパーをハイに設定しながら言った。

(21) Martin: Why didn't you pick up your phone, man?

Carl: My phone was on vibrate. (映画 *Chef*)

マーティン：なんで電話出なかったんだよ。

カール： マナーモードにしたから。

(22) David walked in and saw the television first — it was on the shopping network, a close-up of a hand dangling a gold bracelet. (Thomas McGuane, “Motherlode”)

デイヴィッドが中に入ると、まずテレビが目に入った — 通販番組のチャンネルに合わせられており、金のブレスレットをぶら下げた手のアップが映っていた。

こうした例における on も、目的語が線的に並ぶ要素のうちの1つに対応しているパターンと考えられると思います。選択肢がいくつか並んで線のようにになっているということです。

この用法では「選んでいる」という実感が伴うことが重要なようです。『ウィズダム英和辞典』の記述を見てみましょう。

(23) set the water heater at [to] 45 degrees

温水器を45度に設定する

(! 温度調節表示では on を用いる : set it on “high [low]” それを高 [低] に設定する) (『ウィズダム英和辞典』第4版 s.v. set)

ここで言う「温度調節表示では」というのは、おそらく、「高 or 低」とか「高 or 中 or 低」とかいった選択肢から選ぶタイプの機器では、ということの意味するのでしょうか。そうでない機器は、おそらく、指で何度もピピピと押して0.5度とか1度とかの単位で温度を上げ下げするタイプの機器でしょう。前者のタイプの方が後者のタイプに比べて温度を「選択肢の中から選んでいる」という実感を持ちやすく、その場合には on を選ぶのが自然だというのがここで言われていることなのではないかと思います。

5. 選択肢の中から吟味して決める

選択肢の中から吟味して決めるときに on が使われるのは、機器の設定の場面に限られません。たとえば settle on X 「(選択肢を色々考えた上で) X に決める」は重要な表現です。点線部のように複数の選択肢の中で吟味している様を描き出すところまで含めてよくある言い回しだと言えるでしょう。

(24) Finally mustering the courage to act, Blue reaches into his bag of disguises and casts about for a new identity. After dismissing several possibilities, he settles on an old man who used to beg on the corners of his neighborhood when he was a boy [...] (Paul Auster, *Ghosts*)

ついに行動に移す勇気を奮い起こして、ブルーは変装グッズの入った袋の中に手を突っ込み、新しい自分を探す。あれでもないこれでもないが消去していき、子どものころ近所にいた年寄りの物乞いの格好をすることに決める [...]

(25) [...] he leaned forward and switched on the radio. Hopping through the commercials and the relentless country music [...], he settled on the local news.

(Nicholas Evans, *The Loop*)

[...] ダンは身体を前に傾けてラジオをつけた。コマーシャルや延々と続くカントリー音楽を飛ばしていき [...], ローカルニュースに落ち着いた。

加えて decide on X 「(選択肢を色々考えた上で) Xに決める」のパターンも同様に考えることができます²。

(26) I peruse the menu, trying to find something that's not too messy to eat. I decide on the seared-tuna salad.

(Emily Giffin, *Baby Proof*)

メニューを吟味して、食べても汚れなさそうなものを探す。炙りマグロのサラダに決定。

ここで見た {settle / decide} on ... も、前節で見た機器設定のパターンと同様に、on の目的語が線的に並ぶ要素のうちの1つに対応しているパターンだと言えるでしょう。

6. リストという線に乗って

今まで見てきた例では、on の目的語は線的なものを構成する一要素に対応していました。それに対して、これから見ていくのは、on の目的語が線的なもの全体に対応する例です。

まず、on の目的語がリストになっている例を見ます。リストとは、箇